

【研究ノート】

保育者が考える保護者支援に必要な資質・力量 —インタビュー調査の分析結果から—

岸本 美紀*

要 旨

本研究の目的は、保護者支援に必要な資質・力量とは何か、保育者の考えから具体的に把握することである。16名の現職保育者にインタビューを行い、その逐語記録をカテゴリー化し、分析を行った。その結果、48個の1次カテゴリーが抽出され、11個の2次カテゴリーにまとめられた。最終的に「保護者を理解し、対応する力」、「つなげる力」、「聞く力・伝える力」、「保育の専門的スキル」、「個人の特徴」の5つの3次カテゴリーが設定された。また、「知識」と「経験」が必要と回答する保育者がそれぞれ2割以上存在した。保護者支援の資質・力量を向上のために、これらの結果を現職保育者の支援や養成教育に反映させることが求められる。

キーワード：保護者支援、資質・力量、インタビュー調査

I. 問題・目的

1. 保護者支援をめぐる動向

保育所における保護者支援は、2008年に「保育所保育指針」が改定された際に第6章「保護者に対する支援」が設けられたことから、保育士にとって重要な責務だと改めて認識されたのではなかろうか。「保育所保育指針」の2017年改定では「保護者に対する支援」から「子育て支援」に変更となったが、保育士にとって保護者が支援の対象であることには変わりはないだろう。幼稚園における子育て支援については、2008年「幼稚園教育要領解説」において「幼稚園が家庭や地域社会との連携を深め、地域の実態や保護者及び地域の人々の要請などを踏まえ、地域における幼児期の教育のセンターとしてその施設や機能を開放し、積極的に子育てを支援していく必要がある¹⁾」と示された。「幼稚園教育要領」も2017年に改訂されたが、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を担うことは継続して求められている²⁾。そして、保護者支援、子育て支援を重視する方針は、2017年改定「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」も同様であろう。

一方で、近年では「モンスターペアレント」や子どもに虐待をする保護者など、保育者が対応に困る

保護者の問題が話題になっている(尾木, 2008³⁾、望月他, 2008⁴⁾)。また、「気になる保護者」への対応に苦労しているという現状や支援の課題についても報告されている(藤後他, 2010⁵⁾)。全国保育士養成協議会の調査(2009)では、保育職早期離職者の「仕事をやめたいと思った理由」において、「保護者との関係が作れなかったとき」が全体の19.1%と約2割を占めた⁶⁾。この結果から、保護者と関係作りは保育職継続に影響を与えうることが推察される。また、金城他(2011)は、保育者に半構造化面接を実施し、「保育職の大変さ」の1つに「保護者への対応の難しさ」が含まれることを明らかにした⁷⁾。

以上のように、日本の保育・幼児教育では保護者支援の重要性が明示されている。その一方で、実際の保育現場では、保育者が対応に苦慮する保護者、保護者との関係に難しさを感じている保育者が存在する実態がある。

さらに「保育所保育指針解説」(2018)では、第5章「職員の資質向上」において「子どもの保育と保護者の援助を行っていくためには、すべての保育所職員に対して、それぞれの職務にふさわしい専門性が求められる」と示されている⁸⁾。保護者支援についても、保育士の専門性を発揮することや適切に行うために資質向上の取り組みが求められることがうかがえる。

*岡崎女子大学

この点から、保育者に求められている保護者支援の専門性を向上させるためには、保護者支援に求められる資質・力量とは具体的にどのようなものかを明らかにすることが必要だと考えられる。先行研究では、資質、力量、専門性などの用語が用いられているが、本研究では、明らかにしたい内容と先行研究との関係から、資質・力量と表すこととした。

2. 保護者支援、子育て支援に求められるもの

岩藤他(2007)は、幼稚園で行われる子育て支援のうち「子育て相談」に注目し、相談の専門家のアドバイスがあることが、教諭の援助者としての技能を向上させることにつながり、相談の質を高めることを示唆している⁹⁾。佐藤他(2013)は子育て相談について、1. 子どもの日常の姿を中心にして、幼稚園での具体的な保育を知らせることが基本となる、2. 「相談専門家」とともに行う子育て相談が必要である、ということを示している¹⁰⁾。つまり「子育て相談」では、子どもの姿を把握して伝える力、他の専門家と連携する力などが保育者に求められると推察される。

齋藤(2008)は、「気になる」子どもの保護者支援について保育者に実施した質問紙調査の結果から、子ども家庭支援に求められる保育所保育士の専門性について、虐待や発達障害の発見・援助の重要性を指摘している¹¹⁾。石川他(2010)は、保護者の回答から、家庭の事情に応じたピンポイント的支援と、保護者とのパートナー関係を築くための原点としての相談の重要性について述べている¹²⁾。また柏女他(2012)は、保育士が行う保護者に対する保育相談支援(保育指導)について体系化を目指して分析を行ったが、保育相談支援の技術として動作的援助技術や環境構成の技術が把握され、保育と同期した動作的援助技術がその大きな特性の一つであるとした¹³⁾。加えて、保育相談支援は、ソーシャルワークやカウンセリングと近接し、かつケアワークである保育と一体的に提供される技術であることも明らかにした¹⁴⁾。

以上の先行研究からは、幼稚園や保育所における保護者支援に必要な資質・力量として、相談を受ける力の重要性がうかがえる。しかし、保護者支援の資質・力量について保育者の回答から分析した研究は、田辺(2014)¹⁵⁾などしか見当たらず、十分な検討がなされていると言えない状況である。田辺(2014)は、保護者支援の専門的力量について、「大人としての対人関係力」「大人としての対人関係力を支える素質」「子どもの保育と連動させる力」を挙げている¹⁶⁾。

3. 保育者の全般的な資質・力量からみる保護者支援に必要な資質・力量

保護者支援に必要な資質・力量について、保育者の資質・力量や専門性を検討する研究から考えていく。保育者の資質・力量等について現職の保育者を対象とした研究については、矢藤他(2005)¹⁷⁾、宮内(2008)¹⁸⁾、藤尾他(2010)¹⁹⁾、寅丸他(2010)²⁰⁾、全国保育士養成協議会(2014)²¹⁾などが挙げられる。実際に保育現場で働く保育者の考えから、保育者の専門性や資質能力を構成する要因、養成校への役割期待などについて知見を得ている。学生を対象とした研究では、高桑他(2010)²²⁾、野田他(2011)²³⁾があり、保育者養成教育やそのカリキュラムへの反映を目指している。大森他(2014)²⁴⁾は保護者に対して期待する保育者の専門性を尋ねている。いずれの研究も、保護者支援は保育者の資質・能力の一部として捉えられている。例えば、宮内(2008)は保育士の専門性として、「保育所保育士として必要な知識」「保育に必要な法律や国の基準に関する知識」「子どもやその家族の福祉に関する知識」「子どもの健康や発達に関する知識」「保育に必要な理論や条約に関する知識」の5つの因子を抽出している²⁵⁾。藤尾他(2010)は幼稚園教員の資質能力について、「専門的資質能力」「実践的専門技術」「連携・協力」「理想的教師像」「学級経営力」「人間性」という6つの因子を抽出した²⁶⁾。また、大森他(2014)の調査では、全国保育士会「保育士のキャリアパスの構想」6因子(乳児保育、障がい児保育、子育て支援、社会的養護、食育、保健衛生)に対し、保護者の回答からは「食育・発達支援」「子育て支援」「社会的養護」の3因子が抽出され、専門性における保育者と保護者との認識のギャップなどが明らかになっている²⁷⁾。

保育者の資質・力量の側面からみると、構成要素や因子について検討がなされているものの、保護者支援については、必要な資質・力量など具体的な検討がまだ十分とは言えない状況である。なおかつ、幼稚園教諭、保育所保育士別々に分析がなされている先行研究が多いという実態がある。今後、幼保連携型認定こども園が普及し、保育士資格と幼稚園教諭普通免許状を取得した保育教諭がスタンダードとなっていくのであれば、対象者を保育所保育士、幼稚園教諭と限定せず両方を対象とする方が有益だと考えられる。

4. 調査の目的

以上のような見解から、岸本他(2015)では、保育者の資質・力量に関する先行研究などから記述を抽出し、保護者支援に必要な資質・力量を検討した。その結果、57項目の1次カテゴリーから12個の2次カテゴリーが設定され、最終的に保護者支援に必要な資質・力量について「支援」「保育」「資質」「保育以外」という4つの3次カテゴリーが設定された²⁸⁾。また、保護者支援には、保育の専門的な知識、技術のみならず、保育以外の経験も重要であることが示唆された²⁹⁾。加えて、岸本他(2016)では、保護者支援に必要な力量について、幼稚園教諭が保護者への伝え方や配慮だけでなく、子どもに関わる姿勢や態度も必要と考えていることが示唆された³⁰⁾。

岸本他(2015)³¹⁾では、保育者の資質・力量という観点から、最終的に「支援」「保育」「資質」「保育以外」に分類されるような多岐にわたる質問項目が作成された。この質問紙調査を実施することにより、保育者の語りからは得られない可能性がある項目、保護者支援に直結していると考えにくい項目も含め、保護者支援に必要な資質・力量を幅広い要素から捉えられるのではなかろうか。しかし、長所と考えられた多岐にわたる項目からの資質・力量の把握が、一方で、保育者が専門性を発揮して行っている保護者支援の実態と乖離しうることが推察される。そのため、本研究では、実際に保護者支援を行っている保育者の語りから分析することで、保護者支援の実態をより反映した、保護者支援に必要な資質・力量の把握を試みることにした。

II. 方法

1. 調査対象者

筆者が個人的に依頼した女性保育者16名。属性については、以下の通り。

(1) 保育歴

1～5年：7名、6～10年：3名、10～20年：4名、
20年以上：2名

(2) 所属

保育所：10名、幼稚園：6名

2. 方法

(1) 方法

個人的に依頼した保育者に対して、保護者支援に関する半構造化面接を個別に行った。主な質問内容は、保護者支援に必要な資質・力量、保護者支援に役に立った学生時代の学びや経験、保護者支援で印象に残っていること、困ったこと・難しいこと、などである。

データについては、対象者の了承を得たうえで、ICレコーダーに録音し、逐語記録に起こした。

(2) 分析方法

筆者が対象者に実施した面接調査において、「保護者支援に必要な資質・力量」に関する逐語記録を整理し、分析をおこなった。

① 1次カテゴリーの設定

逐語記録の内容を表すカテゴリー(以下、1次カテゴリー)を作成した。1人の回答者の逐語記録中に複数の意見が列挙されている場合は、それぞれ独立したものとして分類した。60個の記述を抽出し、そのうち「保護者支援の資質・力量」に関する項目48項目を1次カテゴリーとして設定した。

② 2次カテゴリーへの分類

48項目の1次カテゴリーを似たような内容に集約、包括し、14項目の2次カテゴリーを設定した。

③ 3次カテゴリーの設定

さらに2次カテゴリーを集約、包括し、5項目の3次カテゴリーを設定した。

④ 再分類化

逐語記録の内容を再び読み直して、設定した3次カテゴリーに分類し直した。

3. 倫理的配慮

面接調査については、平成27年度岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の研究倫理委員会の承認を得て行った(通知番号2)。また、対象者に対しては、研究の趣旨、個人情報取り扱い等について説明し、同意を得られた場合に同意書に記入をしていただき、面接調査を実施した。

III. 結果及び考察

1. カテゴリー化

(1) 1次カテゴリーの設定

保育者に実施した面接調査逐語記録から、60個の記述を抽出し、保護者支援に必要な資質・力量に該

当しないと 12 個を除き、48 項目の 1 次カテゴリーを設定した。

除いた 12 個の内訳は、知識（応急処置、相談機関・専門機関に関するものを含む）5 個、経験 4 個、その他（笑顔、元気、声をかける勇氣）3 個である。子育て支援職に大切な資質について分析した星他（2014）では、経験、知識・情報を分類していた³²⁾が、本研究では能力や力を意味する資質・力量に該当しないと考え、分類から外した。しかし、インタビュー調査の対象者数から考えると、知識は 31.3%、経験は 25%の保育者が、保護者支援に必要なものだと考えていることがうかがえる。知識や経験が保護者支援に必要と考える保育者が少なからずいることが推察される。

(2) 2 次カテゴリーの設定

次に、1 次カテゴリー 48 項目を 11 項目の 2 次カテゴリーに集約、包括した結果を表 1 に示す。

① カウンセリングマインド

「受け止める力」、「保護者の気持ちに寄り添っていくこと」など、カウンセリングマインドに関する力が、保護者支援に必要だと保育者が考えていることがうかがえる。保護者と関わる姿勢として、カウンセリングマインドが保育者に意識されているのではなからうか。岸本他（2013）において、保育者がカウンセリングマインドを養成教育で学んでいることは、保護者が希望することだと示唆されている³³⁾。カウンセリングマインドは、保護者が希望するだけでなく、保育者自身も保護者対応に必要な資質・力量と捉えていることが推察される。

② 保護者の立場に立って対応する力

「保護者が抱えている問題をわかりやすくしてあげる配慮」、「平等になるようにする」などが含まれる。これらから、保護者の問題解決に寄り添うなど、保護者の困難な状況や不快感を軽減するような、保護者の立場に立って対応する力が必要だと考えられているのではなからうか。

③ 保護者を把握する力

「こまめに親ができていない部分を見ていく」、「家庭の状況を把握する力」などである。「保育所保育指針解説」（2018）では、保育所を利用している保護者に対する子育て支援について、「家庭と保育者が互いに理解し合い、その関係を深めるためには、保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受け止めること」³⁴⁾と示されている。保護者の育児の

様子や家庭の様子を把握する力は、現職の保育者の考えからも、保護者支援のために必要とされることが推察される。

④ 信頼関係・連携を築く力

「一緒にやっ払いこうという関係まで繋げていく力」、「連携」などが含まれる。平成 29（2017）年改定「保育所保育指針」の第 4 章子育て支援では、1 保育所における子育て支援に関する基本的事項において、「相互の信頼関係を基本に」³⁵⁾することが示されている。保育者自身も、保護者支援のために保護者と信頼関係を形成したり、連携したりする力が必要だと考えていることがうかがえる。

⑤ コミュニケーション力

「コミュニケーションをとろうとする力」、「お互いいろいろなことを話して意思疎通」などである。「保育所保育指針解説」（2018）には「保護者とのコミュニケーションの実際」として、具体的な方法やその際の基本姿勢が示されているが³⁶⁾、保育者が実際に保護者を支援する中でコミュニケーションの必要性を感じていることが推察される。

⑥ つなぐ力

「相談機関とのネットワークづくり」、「保護者同士が会う機会をつくる」などである。平成 29（2017）年「保育所保育指針」の改定の方向性として、保育所における子育て支援においては「地域で子育て支援に携わる他の機関や団体など様々な社会資源との連携や協働を強めていくことが求められている。」³⁷⁾と示されている。加えて、保護者の養育力の向上につながる取組においては、「保護者同士の交流や相互支援又は保護者の自主的活動を支える視点ももちながら実施することが大切である」³⁸⁾と示されている。結果から、保育者が地域の専門機関、相談機関などとつながる力や保護者同士をつなげる力が必要だと考えていることがうかがえる。

⑦ 聞く力

「聞く力」、「話をしっかり聞くこと」などである。保育者が保護者の話をしっかり聞く力が必要だと考えていることが理解できる。柏女他（2010）では、保育相談支援技術（保育指導）の類型化と定義が示されている³⁹⁾が、その中の「傾聴」に似たものだと推察される。

⑧ 伝える力

「伝える力」、「いろいろな情報を伝えていくこと」などである。子どもの姿など、把握したことをどう伝えるかだけでなく、保護者にとって役に立つかも

表1 カテゴリーの内容

数字は個数 (%)

3次カテゴリー	2次カテゴリー	3次カテゴリー(抜粋)	48(100)
A. 保護者を理解し、対応する力	①カウンセリングマインド	・受け止める力 ・保護者の気持ちに寄り添っていくこと	7(14.6)
	②保護者の立場に立って対応する力	・保護者が抱えている問題をわかりやすくしてあげる配慮 ・平等になるようにする	4(8.3)
	③保護者を把握する力	・こまめに親ができていない部分を見ていく ・家庭の状況を把握する力	2(4.2)
B. つなげる力	④信頼関係・連携を築く力	・一緒にやっという関係まで繋げていく力 ・連携	5(10.4)
	⑤コミュニケーション力	・コミュニケーションをとろうとする力 ・お互いいろんなことを話して意思疎通	4(8.3)
	⑥つなぐ力	・相談機関とのネットワークづくり ・保護者同士が会う機会をつくる	3(6.3)
C. 聞く力・伝える力	⑦聞く力	・聞く力 ・話をしっかり聞くこと	3(6.3)
	⑧伝える力	・伝える力 ・いろいろな情報を伝えていくこと	8(16.7)
D. 保育の専門的 技能	⑨子どもを見る力	・子どもを見る力 ・発達を捉える	5(10.4)
	⑩保育技術向上の 努力	・保育の技量 ・一生懸命書こうとすること	3(6.3)
E. 個人の特徴	⑪個人の特徴	・感性 ・包容力	4(8.3)

しれない情報を得て伝えることも含まれているのではなかろうか。柏女他(2010)の保育相談支援技術(保育指導)の類型化では、発信型の言語的援助として情報提供、紹介、助言などが挙げられている⁴⁰⁾。また、岸本他(2015)⁴¹⁾における2次カテゴリー「保護者への情報発信」が部分的に一致すると考えられる。「保育所保育指針解説」(2018)には、保護者と連携して子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの育ちの姿とその意味を保護者に丁寧に伝えることが示されている⁴²⁾。子どもの姿を捉えることや様々な情報を得るだけでなく、それらを保護者に伝える力が必要だと保育者が考えていることがうかがえる。

⑨ 子どもを見る力

「子どもを見る力」、「発達を捉える」である。このことから、保護者を支援するために、子どもをしっかり見ること、理解することが必要だと保育者が考えていることがうかがえる。また、岸本他(2015)

⁴³⁾における2次カテゴリー「発達」に近いものだと考えられる。子どもを見ること、子ども理解から保育者の援助は始まるが、これらは間接的に保護者支援につながっていくものだと推察される。

⑩ 保育技術向上の努力

「保育の技量」、「一生懸命書こうとすること」などである。岸本他(2015)⁴⁴⁾における2次カテゴリー「保育者の資質」に近いものだと推察される。書くことについては、伝える力と同様、子どもの姿などを保護者に知ってもらったり理解してもらったりするために必要だと考えられているのではなかろうか。

⑪ 個人の特徴

「感性」、「包容力」などが含まれる。保育者と言うより、一人の人として備えもったものだと考えられる。田辺(2015)⁴⁵⁾による「大人としての対人関係を支える資質」に近いものだと推察される。保護者を支援する際、個人の特徴が活かされることがあ

るのではなからうか。

(3) 3次カテゴリーの設定

11項目の2次カテゴリーを集約し、5項目「保護者を理解し、対応する力」、「つなげる力」、「聞く力・伝える力」、「保育の専門的技能」、「個人の特徴」の3次カテゴリーを設定した(表1)。

A. 保護者を理解し、対応する力

「カウンセリングマインド」、「保護者の立場に立って支援する力」、「保護者を把握する力」を包括した。保護者の状態などを理解し、カウンセリングマインドを活かしながら具体的な対応をしていく力が保護者支援に必要な資質・力量だと推察される。

B. つなげる力

「信頼関係・連携を築く力」、「コミュニケーション力」、「つなぐ力」を包括した。保護者支援に必要な資質・力量として、保護者とコミュニケーションをとり、信頼関係や連携を築く力、保護者を地域の専門機関等につなぐ力が挙げられるのではなからうか。

C. 聞く力・伝える力

「聞く力」、「伝える力」を包括した。保護者との相談場面や保護者に応対する際は、聞く、伝える(話す)行為が行われる。保育者または保護者が一方的に伝えるのではなく、保育者がしっかりと話を聞き、必要な情報や意見を伝えられる力が求められる資質・力量の1つだと推察される。

D. 保育の専門的技能

「子どもを見る力」、「保育技術向上の努力」を包括した。直接保護者と関わる力ではなく、保育の専門性と関連がある子どもを見て理解する力、保育に必要な技能等が求められる資質・力量だと考えられる。

E. 個人の特徴

2次カテゴリー「個人の特徴」を包括させなかった。「個人の特徴」は、保育以外の資質・力量になると想定したからである。保育者自身の人としての資質・力量が保護者支援にも反映されることが推察される。

IV. まとめ

保育者のインタビューから、保護者支援に必要な資質・力量について検討した。逐語記録から抽出した項目をカテゴリー化した結果、保育者が考える

保護者支援の資質・力量は、「保護者を理解し、対応する力」、「つなげる力」、「聞く力・伝える力」、「保育の専門的技能」、「個人の特徴」の5つの3次カテゴリーにまとめられた。保護者に直接関わる際に必要な姿勢や対応する力だけでなく、保護者支援とは直接関係しないと思われるような保育の専門的な資質・力量が、保護者支援に必要であると保育者が考えていることが示唆された。また、個人の特徴と捉えられるような感性や包容力などが保護者支援に必要な資質・力量として挙げられた。以上のようなことから、よりよい保護者支援が行えるよう、5つのカテゴリーに注目して資質向上を目指す取組ができるのではなからうか。例えば、養成教育において取り組める内容を見出したり、経験の浅い保育者を支援する教育のあり方を検討したりする必要性が考えられる。

本研究では知識や経験を資質・力量には含めなかったが、保護者支援には知識や経験が必要だと考えている保育者が、それぞれ2割以上いた。保護者支援は、新任であろうと行わなければならない保育者の業務である。保護者との関係が離職を考える理由になりうることを踏まえると、若い保育者が保護者支援で心を折り早期離職をしないように、仕事を継続してキャリアアップしていけるような方策を検討する必要があるのではなからうか。

今回の分析では、保育者の語りをもとに保護者支援に必要な資質・力量を大枠で捉えることができた。しかし、対象者の偏りやデータ数の少なさが課題として残り、それが研究結果に反映されていることが推察される。また、緻密な分析には至らなかった。今後の課題として、さらにデータを収集するだけでなく、今回のカテゴリーの生成要因等を分析する必要がある。また、養成教育につなげる分析を行うことができなかったため、収集したデータから保護者支援の資質・力量を成長させるための養成教育の検討を行う必要があると考えられる。

付記

本研究は、平成27年度岡崎女子大学・岡崎女子短期大学課題研究助成を受けて行ったものである。

引用文献

1) 文部科学省(2008)『幼稚園教育要領解説』フレール館。p.239.

- 2) 文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.
- 3) 尾木直樹 (2008) 「アンケート調査報告「モンスターペアレント」の実相」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』 5、pp. 99-113.
- 4) 望月初音・北村愛子・大久保ひろ美・田邊千夏・小尾栄子・埴晶子 (2008) 「子ども虐待の早期発見・予防に関する研究－保育士が子どもの虐待を疑った時の対応と苦慮していること－」『つくば国際大学 研究紀要』 14、pp. 175-188.
- 5) 藤後悦子・坪井寿子・竹内貞一・府川昭世・田中マユミ・佐々木圭子 (2010) 「保育園における「気になる保護者」の現状と支援の課題－足立区の保育園を対象として－」『東京未来大学研究紀要』 3、pp. 85-95.
- 6) 社団法人全国保育士養成協議会 (2009) 「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書 I－調査結果の概要－『保育士養成資料集』 50、p. 128.
- 7) 金城悟・安見克夫・中田秀雄 (2011) 「保育職の大変さとやりがいに関する保育者の意識構造について－M-G T Aによる分析の試み－」『東京成徳短期大学紀要』 44、pp. 25-44.
- 8) 厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針解説』フレーベル館. p. 345.
- 9) 岩藤裕美・立石陽子・安藤智子・荒牧美佐子・丹羽さがの・砂上史子・掘越紀香・無藤隆 (2007) 「幼稚園における子育て支援：幼稚園における「子育て相談」の形態と保護者の精神的健康との関連から」『お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要』 4、pp. 27-34.
- 10) 佐藤慶子・阿部敬信・菊池香奈恵 (2013) 「幼稚園における子育て相談のあり方に関する考察－別府市内幼稚園の保護者に対する質問紙調査から－」『別府大学短期大学部紀要』 32、pp. 19-26.
- 11) 齋藤知子 (2008) 「保育所における子ども家庭支援に求められる保育士の専門性について」『白梅学園大学・短期大学紀要』 44、pp. 33-46.
- 12) 石川昭義・堀美鈴 (2010) 「今日の社会における子育て支援の意味と保育士の役割－犬山市の調査をもとにして－」『仁愛大学研究紀要 人間生活学部篇』 2、pp. 81-95
- 13) 柏女霊峰・有村大士・永野咲・橋本真紀・伊藤嘉余子・西村真実・鎮朋子・水枝谷奈央・山川美恵子・高山静子・三浦淳子 (2012) 「児童福祉施設における保育士の保育相談支援技術の体系化に関する研究(3)－子ども家庭福祉分野の援助技術における保育相談支援の位置づけと体系化をめざして－」『日本子ども家庭総合研究所紀要』 48、pp. 1-37.
- 14) 前掲 13)
- 15) 田辺昌吾 (2014) 「家庭と連携した保育を展開するための保育者の専門的力量. 日本保育学会第 67 回大会発表要旨集、p. 534
- 16) 前掲 15)
- 17) 矢藤誠慈郎・諏訪英広・山中文・湯藤定宗・岡本和子 (2005) 「保育士の資質・力量における養成校における役割期待－保育士への調査から－」『保育士養成研究』 23、pp. 67-74.
- 18) 宮内克代 (2008) 「保育士の専門性を構成する要因の検討」『埼玉学園大学紀要(人間学部篇)』 8、pp. 91-98.
- 19) 藤尾淳子・古川雅文・浅川潔司 (2010) 「幼稚園教員の資質能力に関する研究－幼稚園教諭, 保護者, 園長の力量観の比較から－」『学校教育学研究』 22、pp. 13-21.
- 20) 寅丸尚恵・西川正晃・濱田格子・濱名浩・林鎮代・森田健・矢田正一 (2010) 「幼稚園教師に求められる資質能力－幼稚園本調査の結果分析－」『関西国際大学教育総合研究叢書』 3、pp. 17-40.
- 21) 一般社団法人 全国保育士養成協議会 (2014) 「保育者の専門性についての調査－養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み－(第 2 報)」『平成 25 年度専門委員会課題研究報告書』 28、pp. 66-67.
- 22) 高桑秀郎・濱田尚吾・太田裕子・花田嘉雄 (2010) 「短大生が考える「保育者に求められる資質」に関する意識についての検討－現職幼稚園教諭の意識との比較から－」『羽陽学園短期大学紀要』 8 (4)、pp. 61-68.
- 23) 野田敦史・藤田雅子 (2011) 「保育士の専門性における構成要因の検討－保育士志向学生の自己評価から－」『東京未来大学研究紀』 4、pp. 37-43.
- 24) 大森弘子・太田仁・水谷弘正 (2014) 「保護者が期待する保育士の専門性－保育士のキャリアパスを通して－」『佛教大学社会福祉学部論集』 10、pp. 1-10.
- 25) 前掲 18)
- 26) 前掲 19)

- 27)前掲 24)
- 28)岸本美紀・武藤久枝 (2015) 「保護者支援に関する質問紙調査項目作成の試み—保育者の側からみた保護者支援に必要な資質と学び—」『日本保育学会第 68 回大会発表要旨集』
- 29)前掲 28)
- 30)岸本美紀・武藤久枝 (2016) 「保護者支援における幼稚園教諭の専門的な力量の形成要因」『中部教育学会第 65 回大会プログラム・要項』 p. 19.
- 31)前掲 28)
- 32)星三和子・塩崎美穂・向井美穂・上垣内伸子 (2014) 「地域子育て支援拠点における困難や悩みをもつ親の支援に関する考察—支援職の「語り」の分析—」『保育学研究』 52(3)、pp. 22-33.
- 33)岸本美紀・武藤久枝 (2013) 「付属幼稚園の保護者が希望する保護者支援に関する養成教育—自由記述の分析から—」『岡崎女子短期大学学術教育総合研究所所報』 6、 pp. 13-18.
- 34)前掲 8) p. 333.
- 35)厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針<平成 29 年告示>』 フレーベル館.
- 36)前掲 8) pp. 329-330.
- 37)前掲 8) p. 6.
- 38)前掲 8) pp. 330-331.
- 39)柏女霊峰・橋本真紀・西村真実編著 (2010) 『保護者支援スキルアップ講座 保育者の専門性を生かした保護者支援』 ひかりのくに. p. 77.
- 40)前掲 13)
- 41)前掲 28)
- 42)前掲 8) p. 328.
- 43)前掲 28)
- 44)前掲 28)
- 45)前掲 15)

謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。